

寺院における文化財保護の課題

- 吉田雄基（専修大学文学部） lm191099@senshu-u.jp
- 野口武悟（専修大学文学部） takenori@isc.senshu-u.ac.jp

研究背景と目的

日本には文化財を保有する寺社が数多く存在するが、すべてが安全な状態ではない

→ 地方の過疎化や高齢化、財源や人員の確保が十分ではないという問題

- 自然現象・・・災害や火災の他に、カビや虫害の被害
- 人的被害・・・放火や窃盗、落書きなどによる損傷

2019年文化財保護法改正・・・文化財を活用するという意味合いが強まる

しかし人員や費用の確保、進行の対象である寺院を観光資源とすることに否定的な意見も

本研究では有形文化財を所有する寺院の現状や、文化財の活用に対する管理者の考えを調査し、今後の寺院における文化財保護の課題と対策を考察する。

研究方法

- ▶ アンケート調査を実施して有形文化財を所有する寺院の現状や文化財の活用に対する管理者の考えを調査。
- ▶ 先行研究 「文化財所有者を対象とした人災・獣害の現状と防御システムに関する調査研究」

国指定重要文化財所有者に限定し、アンケートでは人災・獣害の他に自然災害や文化財所有者の意識に関する項目を追加して調査

- ▶ 期間 2022年9月14日から9月30日
- ▶ 文化庁の国指定文化財等データベースから400件の寺院を抽出し、アンケートを送付
- ▶ 209通の返送があり、有効回収率は52.6%となった。
(宛先不明の3通を除いた397通が有効配布数)

研究結果

寺院における文化財保護の現状

人的被害の有無	
ある	22%
ない	78%

N=205

人的被害の事例					
窃盗	破損	落書き	作業ミス	放火	その他
20件	20件	16件	6件	4件	4件

N=70 (複数回答可)

自然現象による損傷の有無	
ある	52.7%
ない	47.3%

N=203

自然現象による被害の事例								
台風や豪雨	虫害	倒木	獣害	地震	竜巻や突風	その他	急激な湿度の変化	強い日差し
89件	24件	23件	22件	15件	10件	10件	6件	4件

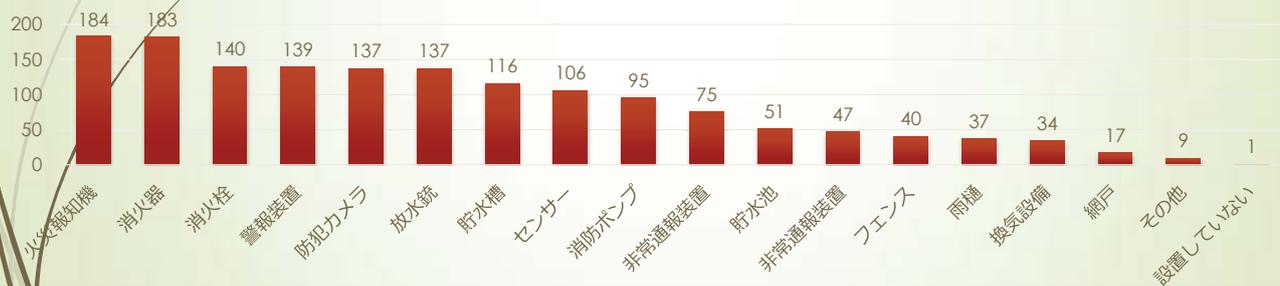
N=112 (複数回答可)

文化財保護対策

実践している防犯対策

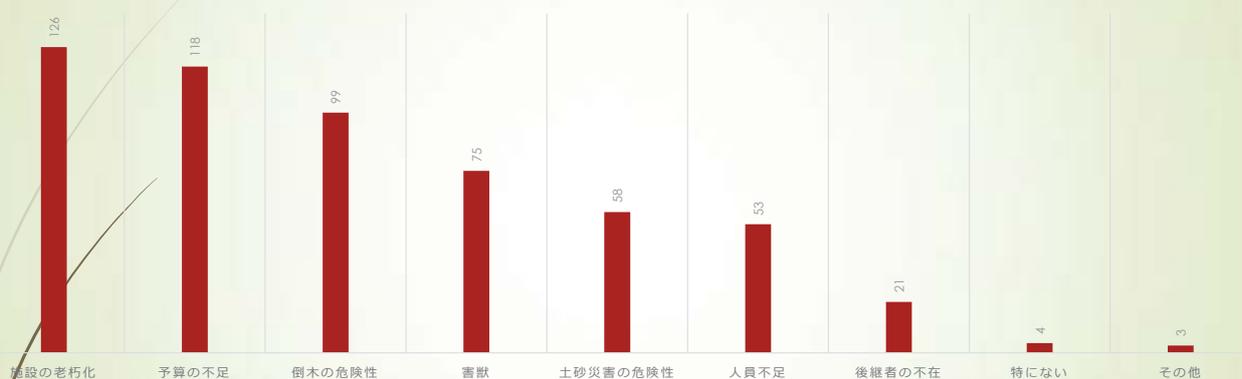
定期的な巡視	施錠の強化	警備会社との契約	デジタル化	レプリカの設置	その他	何もしていない
136件	114件	75件	15件	16件	10件	6件

N=193



N=203 (単位:件) (複数回答可)

寺院関係者の意識



文化財を保護する上で脅威と感ずること N=193 (単位:件) (複数回答可)

「国や市町村が行う助成は十分だと思いますか。」という質問→192件の回答

十分である	不十分である	どちらともいえない
9.0%	43.8%	46.4%

不十分である理由

「寺の負担率が高い」(43件)

→国の助成金は全額補助されない

「日本は世界と比較して文化財保護に充てられる予算が少ない」(2件)

→2016年の調査では6カ国中最下位

「助成を受けるまでに手間がかかる」(12件)

→提出する書類が多い。必要な時にすぐ助成されるわけではない。

『どちらともいえない』と回答した寺院からも同様な意見が見られた。

「文化財保護に向けて地域との協力体制が整っていると思いますか。」という質問

→193件の回答

整っている	整っていない	どちらともいえない
36.3%	17.1%	46.6%

整っている理由

「地元で定期的な消防訓練を実施している」(22件)

「消防団・警備団の結成」(18件)

「市の担当者と定期的に連絡を取っている」(17件)

整っていない理由

「地元の人には文化財に対する関心が無い」(9件)

→人員や資金が集まらない

「行政との連携がとれていない」(6件)

「高齢化・過疎化などで地域住民が少ない」(5件)

→いざという時に助けてもらえない可能性が高い。

「所有する文化財の公開による拝観料の徴収や、観光資源化することにより地域を活性化して修繕費を徴収するという考え方がありますが、これについてどのように考えますか。」

→192件の回答

良いと思う	良いと思わない	どちらともいえない
55.6%	10.1%	34.4%

良いと思う理由

「修繕に莫大な費用が掛かるため拝観料の徴収は不可欠」(23件)

→補助が限定的である以上やむをえない

「実際に拝観料を徴収する形で公開している」(15件)

→期間限定で公開する寺院も含まれる

「多くの人に知ってもらえる」「地域活性化につながる」(14件)

良いと思わない理由

「観光客が少ない」「地方の場合難しい」(7件)

「宗教としての寺院の役割を果たすべき」(3件)

どちらともいえない理由

「効果が見込めない可能性がある」(11件)

「拝観料の徴収に人手や設備投資などの手間がかかる」(9件)

考察

■ 寺院における文化財保護の現状

- ・自然現象による損傷を経験した寺院の割合が高く、その中でも「台風や豪雨」が多い。
- ・しかし「換気設備」「フェンス」「雨樋」などの自然現象を防ぐ設備の設置率は低い。これらの設備の拡充を促す必要がある。

■ 助成金の不足

- ・「施設の老朽化」や「資金の不足」に対する危機意識を抱く寺院が多い。
- ・文化庁主導で助成率を上げるか全額補助できるようにする必要がある。

■ 地域との協力体制

- ・セキュリティの強化などの対策が必要である。

■ 文化財活用に関する意識

- ・多くの寺院が賛同しているため実現性は高い。
- ・費用やプロモーションのバックアップを地方公共団体主導で行う必要がある。

結論

➤ 多くの寺院が陥る資金不足

高齢化・過疎化だけではなく、自然災害が発生した際などに高額な修繕費が発生し、寺院の財務を圧迫している。

➤ 助成金の課題

修繕費が高額な場合2割～3割の負担でも高額になることがあり、改善する必要がある。

➤ 文化財活用の是非

多くの寺院は肯定的だが、インフラ整備やプロモーションなどの行政との連携も必要である。

参考文献

- 文化庁文化財部美術学芸課「国宝・重要文化財（美術工芸品）の所有者のための手引き」2015年
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/hokoku/pdf/shoyusha_tebiki.pdf（最終アクセス：2022年12月13日）
- 文化庁文化財部美術学芸課「文化財（美術工芸品）保存施設、保存活用施設設置・管理ハンドブック」2015年3月、p.3-16
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/hokoku/pdf/setchi_kanri_handbook.pdf（最終アクセス：2022年12月13日）
- 朴 ジョンヨン・崔 青林・金 玟淑・谷口 仁士「文化財所有者を対象とした人災・獣害の現状と防御システムに関する調査研究」歴史都市防災論文集＝歴史都市防災論文集7 161-168, 2013-07立命館大学歴史都市防災研究所
- 文化庁「文化財保護のための資金調達ガイドブック」2020年、p.7
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/shuppanbutsu/pdf/92099501_01.pdf（最終アクセス：2022年12月13日）
- 文化庁「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画・保存活用計画の策定等に関する指針」最終変更2021年6月、p.2
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/bunkazai_hozon/pdf/93483201_01.pdf（最終アクセス：2022年12月13日）
- 文化庁「重要文化財（建造物・美術工芸品）修理、防災、公開活用事業費国庫補助要項」2020年4月改正、p.3
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/joseishien/hojo/pdf/juyo_kenzobutsu_bijutsukogei_hojoyoko.pdf（最終アクセス：2022年12月13日）
- 文化庁「文化庁文化財補助金交付規則」2009年
<https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/joseishien/hojo/pdf/hojokinkofukisoku.pdf>（最終アクセス：2022年12月13日）